



熊本大学附属病院裏は校区民の散歩道

熊本市を支える 医療拠点として

本荘

校区は、白川沿いに位置し、繁華街にも近い校区。中心部を、熊本市の主要幹線道路である、産業道路と国道266号（通称浜線バイパス）が通り、交通や物流の要所にもなっています。また、古くから熊本の医療の拠点となっていることも特長の一つ。明治時代に、熊本大学附属病院の前身となる私立熊本病院が本荘に移転して以来、市民だけでなく、熊本県民の

健康を支えているのが地域の誇りになっています。

高齢化が進み、子どもの数の減少が著しかった本荘校区ですが、近年、高層マンションが多く建つようになりました。それに伴い、減少していた人口も少しずつ増加。校区自治協議会や社会福祉協議会等を中心に、子育て支援事業のひまわりキッズや、高齢者の交流を目的としたいきいきサロン活動など、新旧住民をまちづくりに巻き込んでいくためさまざまな活動が行われています。

忘れ難き故郷――

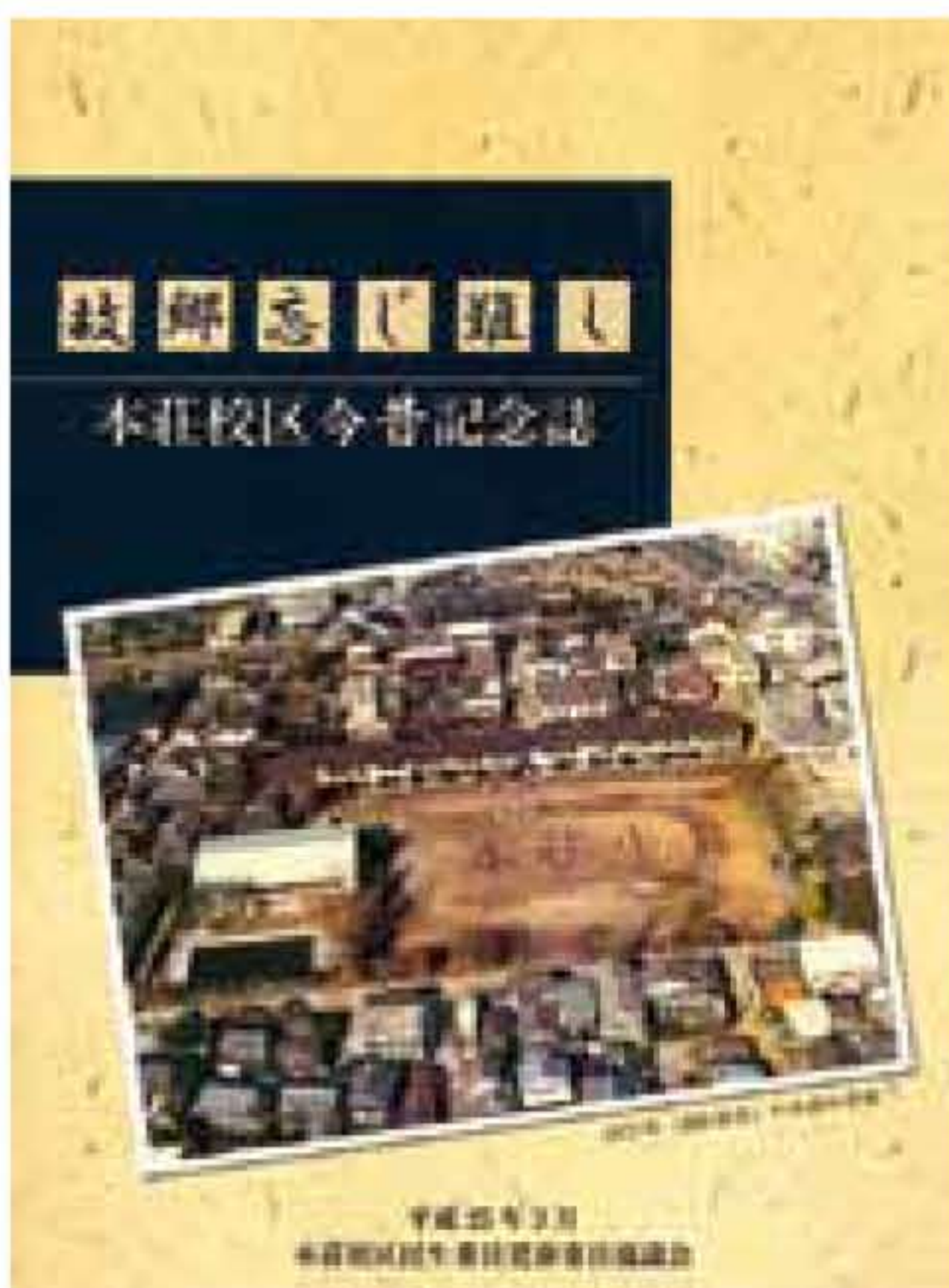
まちの記憶を呼び戻す一冊

着物

を着た子どもたちや、代継神社の様子、水害の惨事を物語る古い写真――。これらを、地域を歩きながら少しずつ集め、本荘校区の歴史としてまとめたのが本荘校区民生委員児童委員協議会の皆さんです。

それが、平成25年3月に発行された「故郷忘れ難し 本荘校区今昔記念誌」には、地域の歴史を物語る古写真が、当時の様子と共に納められています。

「白川改修工事に伴い、平成元年に北区に移転するまでは、白川沿いに代継神社があり、住民の拠り所となっていました。夜市が立ったり、四季折々にお祭りがあったり。代継神社の行事が校区の行事みたいになっていて、結構賑わっていたんですよ」と語るのは、民生委員児童委員協議会の竹田津キク工会長。この冊子を発案し、制作に携わった一人です。「周囲には、あんまり外に出たがらない人が多いんです。高齢者になれば、余計にそう。そんな、外に出られない高齢者を元気づけようと思って、企画したんです」と竹田津さんは当時を振り返ります。「体を動かしたり、旅行に



「故郷忘れ難し」では、学校の卒業写真や水害の様子など、校区の歴史を写真でたどった。上は昭和16年頃の本荘小学校運動会の様子

「きらり」でつながる
ほんじょう
本荘
校区

新しい絆は、 まちの記憶と女性の元氣から

本荘校区主催「本荘校区夏祭り」。本荘小学校児童による「本荘太鼓」の披露のほか、盆踊りで賑わう